

第6回 協働のまちづくり推進特別委員会記録

令和4年9月26日（月）

開議 13時 28分

閉議 15時 20分

全員協議会室

【委員】 西田委員長、上野副委員長

村木委員、村武委員、柳楽委員、岡本委員、芦谷委員、川神委員

【議長・委員外議員】

【事務局】 河上局長、松井書記

議 題

1 まちづくりコーディネーターとの意見交換会のまとめについて

2 今後の取組について

(1) 浜田地区のまちづくり組織との意見交換会

(2) 執行部との意見交換会

3 その他

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

[13 時 28 分 開議]

西田委員長

第6回協働のまちづくり推進特別委員会を始める。

1 まちづくりコーディネーターとの意見交換会のまとめについて

西田委員長

7月11日に意見交換会を開催し、前回その状況を報告していただいたのだが、欠席の委員もおられたのでもう少しまとめた形で意見を伺いたい。

当日のファシリテーターである1班は村木委員、2班は私から意見を言わせていただく。

村木委員

1班は私、柳楽委員、芦谷委員、川神委員。コーディネーターは浜田地域の佐々木さん、弥栄地域の檜谷さん。話す中で、どうしても浜田地域に偏った内容になった。意見としては、コーディネーターが全てをやるという趣もあってなかなかしんどい部分があったところからのスタート。町内会等もできにくく、地区まちづくり委員会もないところがあるので、進めるにあたり困難があったと1年を振り返っていた。

特に佐々木さんは金融機関の出身でもあり、会計にかかわることやその他いろいろな困り事をスタートとし、町内会等々の話し合いをされたと聞いている。

檜谷さんにおかれては、学校の先生だったこともあり、学校を核とした地域づくりという方向で弥栄内で取り組みをしているし、弥栄のみらい創造会議という新しいまちづくり委員会へのかかわりのほうも、毎回会議に出て意見をいろいろ言わせてもらっているとのことだった。

お二方の話の中で印象的だったのが、まちづくりコーディネーターは私が現職のときは市役所本庁への一本化である程度やっていたという原案だったのだが、結果的にいろいろ話をしていく上で、地域ごとに席を設けてやっていくことになった。結果的に1年たってみると、コーディネーターそれぞれが得意分野をお持ちなので、それを生かしたほうがよいのではという内部からの話し合いから、今は本庁に席を置いて6人がミーティングしている。各地域も意識はするが、何のためにやるか、各担当の得意分野をそれぞれの地域に生かしていくワンチームになった。その辺のいきさつについても佐々木さんから聞かせてもらった。

あと、今回1年振り返る中で、情報発信が弱かったということもあり、既に新たに我々へ通信をいただいているし、紙媒体もあればSNSを使った情報発信、さらには今後コーディネーターが進めるべき実施計画もすべて目標を立てて活動していると聞いた。

最後に、印象に残ったのは、協働という漢字自体に力が三つある。1人では無理で、2人でもなくて、多くの力で人が動く。まさにできる人が、できるときに、できることをするのが協働のまちづくりではなかろうかと言われて、すごくよい話を聞かせてもらったと思った。

1階に部屋があるので、議員の皆さんも立ち寄っていただき、方向は同じなので一緒に頑張っていきましょうと話した。

西田委員長

2班の様子は私からお伝えする。メンバーは私、上野副委員長、岡本委員、村武委員は欠席だったので笹田議長に入ってもらった。コーディネーターは全員女性で、毛利さん、本多さん、小田原さん。まとめと発表は、岡本委員にしてもらった。

3名とも自分の専門分野を生かしながら、それぞれの立場で考えていただきながら、各地のまちづくり活動を把握されながら、それにプラスできるアドバイスをされながら、まちづくり活動を応援してきた。その中でよかったことは、まちづくりにかかわってまちが少しずつ変わっていったことを感じられたことらしい。高齢者もだんだん自分たちでできることは自分たちで動いてやってみようかという気持ちが表れてきたと。センターも地域住民一人一人とかかわっている自覚がだんだん芽生えてきたそうである。

課題は、自分たちの活動をSNSでもう少し広げていく手法、PRの仕方等にもまだまだ課題がある。協働のまちづくりというが、そもそもどういうことが協働のまちづくりなのか、それぞれの意識の違いがずっとある中での協働のまちづくりというところで、できるだけ多くの人々が一つの方向へ向くことが大事だと。こういうところである。コーディネーター自身も自分たちの活動に対して自信を持てる方向性が見えてこなくて暗中模索、ご苦労されているのだということを感じた。

1、2班のまとめをしていただいた。これについて委員から意見があればお願いします。前回の特別委員会のおさらいも含めてなのだが、前回から間があいたので。

村武委員

私が考えている以上にコーディネーターがすごく動いておられ、ご苦労されていることは理解できた。先ほど委員長が言ったように暗中模索で動いてこられた1年であったと感じた。ご苦労もたくさんあっただろうし、一生懸命だったろうと思う。そこで、コーディネーターが暗中模索しながら動かなければならなかったのは、やはり担当課の持っていき方というか、計画を立ててやっていくというところが少し足らなかったのではと感じた。村木委員が言われたように今年度は実施計画を立てて進めておられると聞いているが、実施計画は我々に見せてもらっているだろうか。通信は、見せてもらっているが、どのような計画を立てておられるのか具体的などころ

を見てみたいと思う。

西田委員長

我々も、まとめ切れていない、まだすっきりしていない部分もあるような気がしている。まちづくりコーディネーターとの意見交換会のまとめについてはこのくらいでどうか。

村木委員

補足になるかもしれないが、特に佐々木コーディネーターにおいては恐らく岡本委員がかかわっておられるようだが、原井小学校付近において、かなり行政も一緒になって話し合いに参加しておられるようである。まずは困り事からスタートして少しずつ輪を広げていると聞いて、浜田地域の話にかなり入っていることがわかった。

岡本委員

課題をお示ししたい。もともと浜田まちづくりセンター管内は地域協議会のつながりが非常に弱い。おのおのの町内がまとまっていない。私の記憶では、かつて行政側が地域協議会を一つにまとめようとアクションを起こしていたがまとまらなかった。このたび、佐々木コーディネーターと、港町、大辻、原井、笠柄等々動いている。そこで引っかかるのは、自主防災という位置づけには非常にインパクトがあって、何とかしなければならない。今後、自分たちが高齢化する中でいつまでも会長は続けられない。一つの町内で10世帯を割っているところが存在すると、その中で、町内会長を続けられるのかという課題を持つ。言われるとおりの自主防災の小さくくりの中で連携を取るのが必要なのはわかる。ただ、今後また自分たちが会長職を担うのは抵抗がある。まちづくりという位置づけでまとまって何かやろうにも、一体自分に、どういうメリットがあるのか。皆にはメリットがあるがリーダーにメリットがない。もっと仕事が増えるだけだと。もっと肩の荷が軽くなるようにしてあげないといけないということが、ここ最近の私の反省である。まちづくりの一番対象になっているのは浜田地区。ほかの地域は自治区制度の中に生まれた組織体が移行しているので、地域によっては自治会が崩壊したところもあったとしても全体的にはまとまっている。しかし浜田地区はどうしてもまとめられない。ある場所では町内同士の仲が悪いという現実がある。そこがコーディネーターが苦慮するところである。どのような形で、課題を、その荷を解いてあげるかが必要かと思う。

西田委員長

旧市町村の地域もあり、その中でまちづくりセンター単位の地域もあり、自治会・町内会単位の小さい組織がある。それら皆、まちづくりに対する意識の違いや温度差がある。それは当たり前だと思う。どのように意識を醸成したらよいか、というのが方向性の一つだと思う。

三隅はまた今度も地域計画書をつくらうとしている。それは自治会単位。我々の地域の自治会というと、地域課題を見つけてどうすればよいか、高齢者が増えて買い物にも課題があるし移動手段の課

題もある。それらを地域内で解決できないかを皆で話し合う機会を持つ。それによって地域計画書をつくっていく。課題解決のための地域計画書というのが一つあるのと、もう一つは地域資源。地域には一体どういう魅力があるかというところを、自然の魅力もあるし、人の魅力もあるし、存在する魅力を見直して将来的に成長させられるものは何があるか。課題解決と地域資源を生かす魅力づくりの二つがあるような気がして、私たちは私たちの地域内で皆で話し合いながら、地域計画書を今また新たにつくろうとしている。大体5年に1回くらい見直しながら。私らはいつもそういう意識でいるので当たり前のように思うのだが。人間関係の課題などは私のところにもある。それをいかに解決しながら地域でできるだけ同じベクトルを同じ方向に向けて力を合わせてできることはないかと探していく。そういうことではと思いながら地域の中でやってきている。確かに意識の違いが一番の課題かと思う。そういうところにコーディネーターが入っているいろいろなところに大変苦慮されることは多いだろう。

岡本委員

委員長が言われるのはでき上がったところで、新たな課題や前へ進むためのいろいろな取り組みなのだろうが、浜田まちづくりセンターの南側の話をすると、各々町内会長がいて、町内会長同士のつながりがまだ確定していない。我が町内は約40世帯ある。今から統合しようとしているが、その会合すらまだ開けない。このコロナ禍で、どうしようかということでもやり始めたのが自主防災。これが一番皆の意識統合が図れると会長がそう思っても末端にはまだ伝わってない。では何をしようかといったときに、意識を上げるためには自主防災のイベントをやろう、それを働きかけて防災の位置づけで、町内がまとまることは必要だと、それを今やっている。去年の時点で終わっているのにコロナ禍で集会が取りやめになり、皆潰れてきた。それが今新たに動き出して、来月10月11月でまたやろうとしている。そこで町内に持ち帰り、やはり町内は統合して自主防災という形で、例えば港町なら港町自主防災会とするのか、港町自治会にするか、まちづくりとして話し合おうという次のステップ。じゃあ、次はどうしようかという話。私が言いたいのは、まだ下の状態で、町内に伝えられない。町内総会は今どこもやってない。書類だけで終わっている。町内会費、我々は500円会費。その会計報告も、するのだが、今までは集まってもらっていたが、今は集まりがないので書類を回して承認してもらっている。そのような状況をどう改善していくか。私が今思うのは、コーディネーターが進めてくれている自主防災という位置づけで、とにかく意識づけをした。皆が意識を持って一緒にやろうというところまで持ち上げるには時間もかかる。ここが一番大変。全体で考えたときに我々は、低い状態である。しかし、実際には町内活動をやっていないわけではない。おのおのい

ろいろなことをやっている。地域が崩壊しているのではなく、まちづくりという位置づけ、協働という位置づけについては少し状況が違うのかと思う。

西田委員長

意識づけするには皆共通の課題や話題となるような、イベントなり何なりでスタートしながら少しずつ膨らんだり成長したら自然とまちづくりになるかと思うが。

村武委員

私が住む殿町も低いかもしれない。うちの町内は殿町の中でも、なかなか意識が上がりにくく、そこを無理やりやっという呼びかけに力を入れると引かれたりされるので、そこがすごく難しい。自主防災組織も全くできてないのだが、この前やっとな避難訓練をやろうというところまでこぎ着けた。こここのところから動くのではと思っている。協働のまちづくりになって、公民館からまちづくりセンターになったわけで、そこにまちづくりコーディネーターもいるのだが、なぜ公民館からまちづくりセンターになったのかを考えると、細かい地域のところまで、まちづくりセンターがかかわるのは難しいとは思うが、私の中では、まちづくりセンターの職員がまちづくり組織をつくる上で、職員が委員会なり組織を立ち上げたり、意識を高めていくようなことを、社会教育の手法を使ってやっていくことをイメージしていた。しかし、現状、浜田地域ではなかなか難しいところもたくさんあるとは思うが、例えば委員長が先ほど三隅地域のことを話された。そこには以前公民館職員が事務局としてかかわっておられたと思うが、そこはどのように。例えば意識を上げるために何か公民館事業と一緒にされたりとか、そういうスキルを公民館職員が持っているのか。

西田委員長

まちづくり計画は自治会単位でつくっている。公民館エリアの中で自治会が10団体くらいある。各自治会で、各地域で自主防災もあるし、いろいろなまちづくり計画を立てている。公民館職員も各地域におられるので、その中でかかわることもある。行政職員が地域エリア内において、かかわるところもある。行政職員も地域住民なので、その中で誰か積極的な人を中心に計画を持っていつている。しかし最近、行政の地域担当制がなくなった。以前は行政職員が地域担当制で各自治会などに出かけていろいろなアドバイスなどをやった過去があったが、まちづくりセンター職員が自治会へというのは、直接的ではないが含まれてはいる。

村木委員

三隅の地域担当制は自治会には入ってない。地区まちづくり委員会にはかかわっている。地区まちづくり委員会には部会があるのだが、部会のときには担当職員がほぼ必ず出席する。私はたまたま三隅まちづくりの環境育成部に所属しているのだが、担当職員が一緒に来て、センター職員の担当も決まっているので、一緒に事業計画を立てたり実際に事業展開している。

村武委員

先ほど自治会でまちづくり計画を立てるとおっしゃったが、自治会とまちづくりの委員会はイコールなのか。

村木委員

イコールではない。自治会は自治会の地域計画書があり、地区まちづくり委員会には地区まちづくり委員会の計画書がある。そして総合振興計画があり、その三つが繋がっていないのも事実なのだが。それを今後は、総合振興計画がありアクションプランがあり、本来なら地区まちづくり委員会の計画や、自治会の地域計画書が何らかの形でつながっているべきかもしれないが、そこを三隅地域の課題の一つとして上げている。現状は繋がっていないので、今後はそこをどうにかつなげたい。

芦谷委員

三隅地区の課題と言わず、浜田市の課題であると理解しないと。町内会一つにしても言い方が違う。今までの市の対応は「皆違って皆よい」だった。早く名称も仕組みも含めて整理するよう、ここから発信しないと。今の行政では旧町村をずっと引きずっている。西田委員長に聞きたいのだが、まちづくり計画というのは三隅の分で、皆それぞれバラバラなので、ぜひ町内組織の名称や対応などを整理して、全体を横串を通してみたい。合併しても何年にもなる。この特別委員会が提言をする一つの柱であると思う。

地域担当制もあったけど、旭、弥栄、三隅以外にはない。それをそのまま放っておいて、協働推進員なるものをつくった。これも活動はしていると思うが、その辺がバラバラである。もう一つ、今日配ってある「協働のまちづくり推進体制」これを見てほしい。総合振興計画の審議会があり検討部会をやって、協働推進本部をつくって、その下に協働推進員、そこを地域政策部が統括して政策企画課、地域活動支援課等、三つの課があって、残念ながらこの中に、健康や地域福祉や自主防災など、今話が出たものが載ってない。結局、市の協働のまちづくりを推進するためにはこうしなさいということをし少し言わないと、今までのままだとなかなかよくなる。だから計画づくりについてもきちんとやってもらう。それを進めるための推進体制もきちんとつくる。この二つかなと、今の話を聞きながら思った。

岡本委員

芦谷委員の意見を聞きながら私もそう思った。私は冒頭に地域協議会の話をした。私が受け取る地域協議会は自治会。自治会が集まったのが地域協議会という認識で、その自治会の協議会のトップの人たちの感覚は町内会長会。自治会なのだから、まちづくりとは位置づけが全然違う方向で見ている。自主防災も少し違うという位置づけ。仕事が全部自分に被ってくるのだろうかということも半分以上の人が思っている。地域協議会とはこういうもの、自主防災とはどういう位置づけでどういう関連をして、仕事の責任が増えるのではなく軽くしてあげるようなことも含めて、我々から提案する必要

もあるかもしれない。あまり重くしないで、文言の中で整理してあげて。地域協議会、まちづくり、自主防災、自治会という形にしてあげるのがよいのか。少し話し合ってみてはどうか。

芦谷委員

1件追加すると、行政連絡員の位置づけというのが。市は文書配付などをしてもらっただけだと言うが、実質は違う。結局問題なのは総務関係の行政連絡員、自主防災も、全然ここにかかわってない。専ら地域政策部関係でやっているからここまでになる。壁を取り払ってほかと連携を持つように特別委員会で考え方をまとめてから提案するのが一考だと思う。

岡本委員

行政連絡員の話で私も壁にぶつかっている。自分は行政連絡員であって町内会長でもないとか。まちづくりは自分とは少し違うのだという話。地域で例えばイベントをするのに案内を送ると、それは行政からのものではないから月1回のここでしか配れないと。基本的には自分たちはその請負は入ってないということを言われることもある。そういう位置づけではないはず。回覧を回すのに四角四面の話ではなかったはずなのに、自分たちは行政連絡員で行政から依頼された分しか回さないといったことが起きているので、その辺も整理していかないといけない。行政連絡員という位置づけも併せて。

西田委員長

随分前に浜田の元公民館に伺ったときも、配り物については、行政のものしか配らないと言われた。違うものを配る際にはそれだけの配付費用が発生すると言われた。その辺も違いがある。我々のところは配り物などのついでに皆配ってはくれる。その辺の意識も違うと思う。何でも気持ちでやったらよい場合と、費用が発生してきちんとやる場合と、けじめはつけないといけない場合といろいろあるとは思うが。まちづくりに対して、町内会や自治会や地域の組織の動きには、それぞれ違いがあることは皆重々ご存じである。その辺の意識づけ、意識の持ち方をどうすればよいかも課題の一つかと思う。

村武委員

先ほどから自治会という言葉が出ているが、自治会というのが恐らく各地で違う形なのでは。以前の自治区制度の特別委員会のときに1回資料が出されたのを見た記憶があるのだが、それぞれが使っている自治会というのは、もしかして形が違うのでは。

芦谷委員

私の記憶をたどれば、この前の前の特別委員会の中で、7、8年前だと思うが、各旧町村の名称の違いなどを整理してもらった。そこをこの特別委員会から早く組織統一、整理をせよというのも一つの方法かと思う。どう考えても十数年たっているのに各地で思い思いの名称を使っているのは市としておかしい。

西田委員長

旧浜田市では町内会の何町内という呼称がある。単位が違う。町内会というのは集落単位でもない。もともと旧浜田と旧町村の中でのエリア分けが違っている。

岡本委員

私の認識ではもともと自治会、私たちは町内会と言うのだが、町内会費を集めて、この町内会費を使って例えば溝掃除したり盆踊りをやったり、敬老の祝いをしたり、その単位でいろいろなことをやっている。会費に見合うだけのものをやる、残った金は次に回すというのが我々の町内会。皆のところはどういう位置づけなのか。そのところが見えていない。

以前は集金常会というのがあった。それは水道料の徴収をしていたらただいたら応分の手数料を町内に払う、市民税関係、学校給食費も同様に応分の費用を支払う形だった。しかしある時期にそれを全部やめてしまった。これからは振り込みの時代なので振り込んでもらえばよい、そのかわり手数料もなしだと。旧浜田市内でないところは、まだ集金常会が形として残っている。それが集落単位になっているのだろう。川神委員の地元、長沢は大所帯だがその辺はどうされているのか。

川神委員

基本的に旧浜田市は自治会という感覚が非常に薄かった気がする。岡本委員が言われたような集金常会のみならず、日ごろの生活に密着しているエリア。どこからどこまでをまとめて町内会にしているかは別だが、昔は子ども会もあれば集金もある、生活に即した最低限のコミュニティがある。それを町内会と呼んでいた。それと自治会というのは少し意味合いが違う。よく言われるのは、旧浜田市の中で町内会長と自治会長は一緒か違うかという言い方をする。おおむね一緒なのがほとんどだが、しかし行政連絡員などが絡んでくる。町内会はあくまで個別の、地域特有の運営色が濃い。自治会になるともう少し行政的な区割りなど、オフィシャルのものが出てくる。町内会というのは仲間内でつくった生活共同体のようなものであり、そこはイコールになってないので、どうしても旧市内である「町内会長をやります、自治会長も兼ねます」という意味合いがよくわからない。だったら1本にしてどこかで整理する必要もあるだろうというのが我々のところでも出ている。各まちづくりセンターのヒアリングをしているときに、まちづくりセンターとまちづくり委員会と地域協議会と、もろもろある立ち位置の関係がすごくわかりにくい。その中には民生児童委員もいれば前は福祉委員もあり、いろいろな役があって何がどうなっているのか。町内会、自治会にかかわっている人間もよく理解していない。その辺はこれを契機にわかりやすくすること。あとはオール浜田で一定の整理をして、どこへ行っても考え方、そのエリアの見方がイコールのほうがよいだろう。それは当委員会の役割かもしれない。旧浜田の組織率をまず徹底的に上げていく、意識の向上を図る。そういう人材をつくってさまざまな活動を後押しするようなことを、議会として後押しする必要があるのであるだろう。行政ができないこと、やろうと思っても壁

があることを超えていくのが議会であり当特別委員会だと思う。我々もそうだが少しずつ皆がずれているので、これを契機にきちんと見直しを図って、再スタートするのもよい機会かと思う。

芦谷委員

連合自治会との会合という、正副議長も出席される会合がある。そのときの様子はわからないが、オール浜田で5地域がすべて参加されるのか。

川神委員

基本的には連合自治会との懇談会は旧浜田が中心で、周辺の旧自治区とそれをやっているわけではない。本来なら全てを一同に会するのが筋だとは思いますが、昔からの流れもあり旧浜田の連合を組んでいる方々との懇談会で課題の話をするのが常である。これがよい形かどうかはいろいろな考え方があろうかと思う。

岡本委員

私は町内会イコール自治会だと思っていたのだが、川神委員の言うとおりで、例えば、私の地元の片庭は今、連合会という。これが自治会なのかなと思ったりする。提案したいのは、認識を改めるためにも委員プラスコーディネーター、もしくは執行部を入れてワークショップをして整理して、問題を抽出できるようにしていかないと、いつまでたっても場所によっての認識が違うのですれ違っていく。そういったワークショップを開催してもらいたい。

西田委員長

これまでの話を総合して岡本委員から、町内会や自治会についての認識、考え方が皆違うし現場もよくわからないので、認識を統一するためにもワークショップをというご意見があった。それは、これからの進め方の中で、組織統一していく方向の何かを設けたいということで、委員はこれでよろしいか。

(「異議なし」という声あり)

柳楽委員

今出ている組織の統一とは名称の統一なのか、組織自体の構成の統一なのか。

西田委員長

両面あるのかと思う。組織の中身もとなると執行部とも調整や意見交換もしなければならないかもしれない。

柳楽委員

結局、これまで自治会とまちづくりを別々にしていたところが統合されるだとか、いろいろな組織形態が出てきていると思う。それを全て同じ形にというのは難しいかもしれない。名称については同じ呼び方のほうがやりやすいのかなと思う。町内会で行政区と言っているところもある。旭などは。その辺はわかりにくいといつも感じているので、町内会単位の名称を同じにしていくのはよいかと思うが、実際に住民の方々は何かしら混乱される状況もあるのかと思うので、住民の意見も伺うのがよいかと思う。

岡本委員

柳楽委員が言うのは、私が考えているよりももっと上の状態の話で、下の部分を少し調整し切って、我々議員そのものがわかっていないのだろうと思う。結局それも着地点を見出すのではなく課題を見つけて、ある程度のことをまとめて、どのようにしていくか。そ

西田委員長

うすれば、もしかしたらまとめたほうがよいという意見があるかもしれないし、今おのこのこまでまちづくりをやっておられるのだからこれはこのままでよい、しかしここはまとめていこうではないか、といったことを話し合ってみたい。

芦谷委員

町内会や自治会や行政区という言葉があるが、その辺を整理するための行政的な資料、行政とのかかわりの中での位置づけなど、何かできそうか。担当課ならきちんとそのあたりを整理されているか。記憶が正しければ7、8年くらい前の特別委員会の中で、行政区ごとの名称が違うのを含めた資料が配られた。

西田委員長

1時間経過したので休憩する。

[14時 24分 休憩]

[14時 43分 再開]

西田委員長

委員会を再開する。休憩中に活発な議論が交わされたようである。町内会や自治会など、まちづくりの途中で担当課にもいろいろ情報を聞いていただいたが、数年前に出されたまちづくり組織図的なものは再度確認して、提出させていただきたい。

このままの流れでいくと、今後予定している行政との意見交換会のときに、テーマの一つとして今のまちづくり組織の統一に向けてたたき台を持ちながら、行政との意見交換を委員との間でしていただきたい。それはそれでよろしいか。

(「はい」という声あり)

住民自治の役をされる方でも意識がばらばらで、分岐点は行政にやらされ感のある仕事と、自分たちの地域は自分たちでやろうという行政関係なしのまちづくり意識、お金があろうがなかろうが地域をこうしたいという意識というか。何かあるような気がする。お金がないとできない場合もあるし、お金がなくてもやろうとする人はボランティアでも何でもやる。そういう人が増えれば行政も喜ばれるような気がしないでもない。

議題1はこれで終わってよろしいか。

(「はい」という声あり)

2 今後の取組について

(1) 浜田地区のまちづくり組織との意見交換会

西田委員長

地区まちづくり委員会等との意見交換をしようではないかという意見もあったが。

河上局長

前回か前々回に、浜田地区のまちづくり組織と意見交換してはどうかという意見があったので、担当課に打診してみた。まちづくり組織にはいろいろな団体があるので、課で抽出は難しいとのことだ

村木委員
河上局長
西田委員長
河上局長
村木委員

った。もし特別委員会としてお願いするのであれば、こちらで目的や団体名を指定し依頼したほうがよいのではと思ったところである。ただ、まだ早いのではという反対意見の委員がおられたこともあるし、先ほどからあるように今後まちづくり担当部署との意見交換会もやったらどうかという意見もあるので、まずそれをやってから、その後必要であればという形がよろしいのではないかと考えている。

確認だが、浜田地域ではなく浜田地区か。

この間は浜田地区と。

これは浜田地域の地区まちづくり組織ではないのか。

あのときは全体のという意味合いだっただろうか。

地区と地域で使い分けをしている。三隅において地域とは旧自治区のこと、その中に三隅地区、三保地区、岡見地区といった区分けがあるのだが。

河上局長
岡本委員

申しわけないが私は地区で捉えていた。

そうなると浜田地域の浜田地区でやっても、かなり差がある。そこに来てもらって話を聞いて判断するのも難しい。局長が言うように、まず担当課と意見交換をするのがよいと思う。

河上局長

もし今回するなら地域か地区かは今決定していただいて。それともこちらが提案したように延期するならこのままで置かせてほしい。

西田委員長

私は、各地域で活動されている地区まちづくり推進委員会のどこかの代表との意見交換という認識だったのだが。局長が言ったように各まちづくり組織はそれぞれ活動状況が違う。ピックアップするのも難しい。もう少し時間をかけて中身を精査していかないといけない。局長が言うように職員との意見交換を踏まえた中で、先々にまちづくり組織との意見交換をしたらどうか。職員との意見交換を先にしたらどうか。後々でまちづくり組織との意見交換をするかしないかは、その先で考えさせていただきたい。それでよろしいか。

(「異議なし」という声あり)

ではそうさせてもらおう。やめるわけではないが少し先延ばしで。

(2) 執行部との意見交換会

西田委員長
河上局長

局長から説明いただく。

前々から申しているように、次回執行部から協働のまちづくり推進計画やまちづくりセンターの評価検証について報告させてほしいと聞いている。ただ、日程がまだ固まっていない。今のまちづくり推進体制がどういったものかというのを、いま一度委員にご理解いただいておりますと、今配信している表をつくった。これが浜田市の協働のまちづくり推進体制、推進条例の第21条に基づいた体制になっている。外部組織として浜田市総合振興計画審議会がトップにあり、その下部組織として協働のまちづくり推進検討部会が

ある。これが外部委員を含んだ委員会である。

2項目目が庁内組織である。条例20条にうたっており、浜田市協働推進本部があり、その下に協働推進員として各課から1名ずつ選出されている。その担当課が地域政策部になっており、3課それぞれの役割を書いている。

一番下の囲みに、浜田市議会が特別委員会を設けて活動している。これが今の浜田市全体のまちづくり推進体制になるかと思う。今、浜田市の2項目目にある協働推進本部でまとめた意見を、先日協働のまちづくり検討部会に上げ、そこでも承認され、10月中旬から下旬にかけて総合振興計画審議会で推進計画やまちづくりセンターの評価検証について報告し、ここで承認がもらえたら次に当委員会に報告いただく流れになっている。

今配信した評価検証、こういった内容を説明されると思うが、今回報告に来られるのは、こういったことで評価していくかという評価項目が決まったことの報告だと思うので、まだ実績は出てない。

以上の流れであることをご承知おき願う。できれば今日のうちに日程を決めておきたかったのだが、まだ担当課から依頼がないのではっきりしないが、11月頭ごろに開けたらと思っている。その後に担当課とフリートーキングなどができたらと思っている。

岡本委員

我々は自主防災からまちづくりの位置づけをしようとするのに、その内容がこの中に入っていない。それから、これは地域活動の一環の中に例えば災害時の支援をすとか、福祉の観点からいろいろなアクションがあるが、そういうのもこの中になさそうに見える。その辺の位置づけはどうなっているか。

河上局長

そういった説明も今度併せてされると思うが、上げてある評価項目はいろいろな視点から入っていると思うし、庁内の検討体制も全部長が入って推進本部になっているので、そのあたりは入っていると思う。

西田委員長

推進計画の中で、必ず入っていると思う。当日にその辺はしっかり聞いていただければ。

芦谷委員

ぱっと見た感じ、地域政策部主動でやられるので、ほかの例えば行政連絡員や自主防災などは入りようがないように思う。できれば、調査をされるのもある程度しっかり構えて、全市を網羅した形でやらないと。一点の視点でやるとおかしいことにならないかと危惧する。

西田委員長

担当部署としたら全部網羅して計画されているつもりではあると思うので、その辺はしっかり聞いていただければ。執行部との意見交換は、この推進計画の報告と併せて意見交換するのだが、日程がまだ決まらない。11月に入ってからくらいかと。確定時期になったら皆と協議して日時をセッティングしたい。そのときに併せて、組

織統一の件も議題に含めたい。

議題2について、ほかにあるか。

村武委員

先ほどから皆で意見を出す中で、町内会や自治会といった単位の考え方の整理だとか、私はまちづくりセンターの役割やコーディネーターの役割といったところもぜひ意見交換してみたい。項目ごとに出して意見交換に臨まないと、混乱していろいろな意見が出てわかりにくくなる気がするので、お願いしたい。

西田委員長
河上局長

テーマの中にはそれも含めて、設けてみたい。

決めておいていただければ、担当課にもそれに合わせた資料を事前に用意してもらいたいので。多分10月の終わりから11月初めごろの委員会になろうかと思うので、その間にテーマを決めるための委員会を開いてもよい。その辺は皆にお任せしたい。

西田委員長

テーマを決めたりするのも含めて、もう1回この委員会を開きたいが、よろしいか。

(「異議なし」という声あり)

日程は後で協議したい。以上でこの件を終了する。

3 その他

西田委員長

今配信した資料を見てほしい。16日、協働まちづくりの実践ということで、長崎県立大学の石田准教授が来られて、各支所と本庁とでウェブも含めて講演を行っていただいた。私と村武委員、村木委員、岡本委員、柳楽委員は支所から、ほかに牛尾委員、三浦委員も聴講された。非常に中身がよく、長崎県松浦市、佐賀県小城市、佐世保市などの協働のまちづくりについて具体的な実践例を話された。終わってから、この特別委員会としても長崎に1泊2日で行けるとのことで、ぜひ実践例をこの目で確かめて感じ取りたいので、視察を計画したいという思いが委員に芽生えている。村武委員に先生の空いている日程等を確認してもらった。視察をやる方向で考えたいがいかがだろうか。

岡本委員

私は会派で松浦市に行こうとしているのだが、村武委員が既にアクションされているようなら少しこちらも考えてみようと思う。委員会主導でよろしく願います。

西田委員長

石田先生に実際にお会いして、先生にご案内いただくのがよいかと思っている。

岡本委員

会派で話しているのはどちらかというとな産業的なこともある。松浦漁港が浜田とも縁がある中で、特殊な朝市などをされているそうなのでそれを見たいのが一つと、先般の石田先生の説明の中に、松浦市が市民ファシリテーターの育成、地域版未来会議をされていたので、その部分は少しお願いしようと思っている。そこがもし対象にならなければ、この部分をターゲットにするよう考えたい。

- 村武委員 私も石田先生の活動もぜひ見たいと思っていたのだが、岡本委員が言われた市民ファシリテーターの育成、松浦未来会議のほうも、まちづくりにおいてはとてもすばらしい活動だと感じていたので、できればこれも聞いてみたい。
- 西田委員長 松浦未来会議はぜひ行きたい項目である。その部分だけは重なるかもしれない。日程はどうなるだろうか。
- 村武委員 先生の都合のつく日程を伺っている。10月26日か11月6、7日。例えば、あいのうら未来パートナーズの話も聞いてみたいとは思っていたのだが、これは地域団体なのでもしかしたら日曜などがよいかとも思ったのだが。やはり土日の視察は外したほうがよいか。6日が日曜ならその団体の視察をして、翌日7日に市の話の聞けたらよいと思ったのだが。
- 西田委員長 《 以下、日程調整 》
では、行く方向で進める。次の当委員会をいつにしようか。
- 河上局長 《 以下、日程調整 》
意見交換会のテーマは、まちづくりセンターとまちづくりコーディネーターの役割について・町内会、自治会等の組織についての2項目とし、事前に担当課から資料を提供していただく。
今回の委員会に間に合うようであれば、そのときに行えればと思う。
- 西田委員長 では次回の当委員会の日程だが、10月26日ということで皆の都合がよいようなので、午前10時からと決定させていただく。もし執行部との意見交換会もそのときまでに調うようなら、そのときに意見交換をするということにさせていただく。
以上で第6回協働のまちづくり推進特別委員会を終了する。

[15 時 20 分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

協働のまちづくり推進特別委員会委員長 西田清久